

経済情報

米銀貸出態度調査（2009 年 10 月）の結果について

連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 10 月調査）の結果が発表された。貸出基準を厳しくした銀行のネットの割合が 4 調査連続で低下するなど、米銀の貸出態度厳格化の動きが収まりつつある。しかし、貸出基準を緩和した銀行の数は引続きゼロで、家計・企業の資金調達環境は厳しいまま。金融システムの正常化にはまだ時間がかかる見通しである。以下、調査結果の概要についてまとめた。

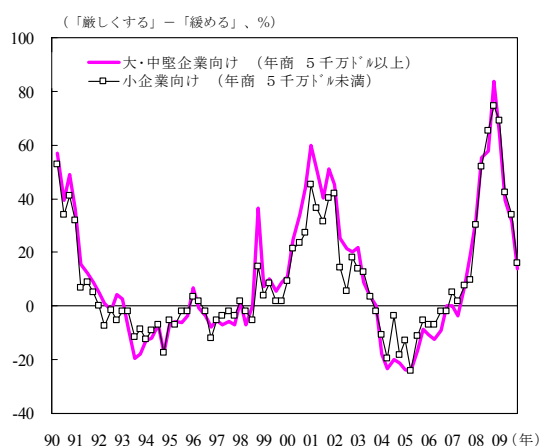
1. 企業向け貸出：貸出態度厳格化の動きはさらに弱まる

① 商工業貸出

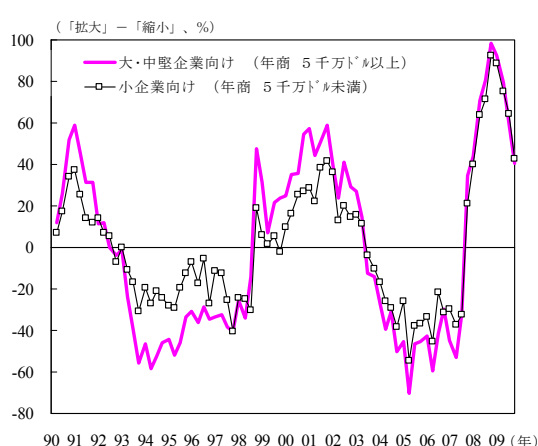
商工業貸出では、3 ヶ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率が、大・中堅企業向けで前回の 31.5%から 14.0%に、小企業向けも 34.0%から 16.1%へ低下した（第 1 図）。金融市場の一段の改善をうけて、ピークをつけた昨年 10 月調査から 4 回連続で比率が低下しており、貸出態度を厳格化する動きにはブレーキがかかってきた。もっとも、貸出態度を緩和した銀行の数は引続きゼロで、企業の資金調達環境は厳しいままである。スプレッドを拡大した銀行のネットの比率も低下したが、大・中堅企業向け（59.3%→40.4%）、小企業向け（64.2%→42.9%）ともに、水準は過去のピーク近傍に止まっている（第 2 図）。貸出基準を厳しくした銀行のうち、約 4 分の 3 の銀行が、その理由として「あまり好ましくない、より不確実な経済見通し」、「リスク許容力の低下」をあげている。景気は底入れから拡大に転じているが、実体経済の脆弱さが引続き米銀の貸出姿勢を慎重にさせている。

一方、資金需要については、持ち直しの兆しがみられる。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、大・中堅企業向けで前回調査の▲44.4%から▲31.6%へ、小企業向けでは▲54.7%から▲35.7%へと、依然「減少」超ながらも顕著に縮小した（第3図）。景気の持ち直しにより在庫投資が増加に転じたり、設備投資の落ち込みペースが鈍化していることが、資金需要に持ち直しの兆しが出ている背景とみられる。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

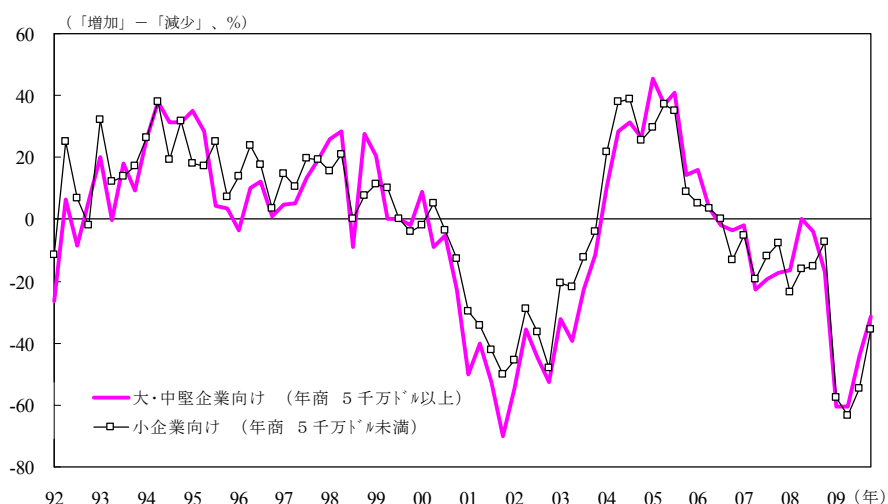


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要

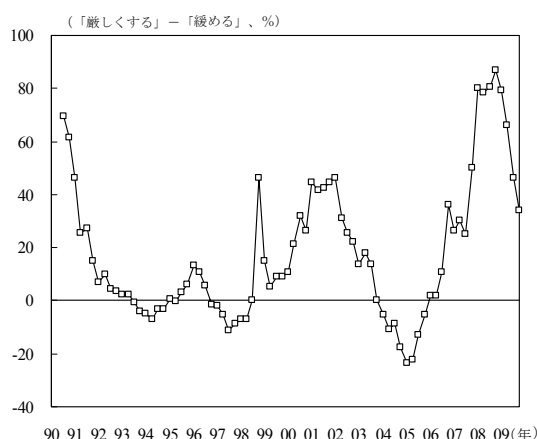


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

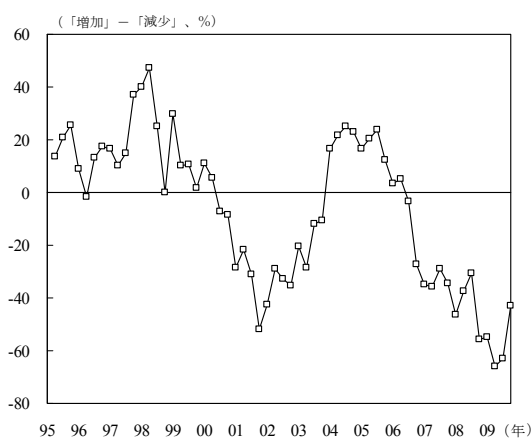
② 商業用不動産貸出

商業用不動産貸出でも、貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査から低下したが（46.3%→33.9%）、商工業貸出や消費者向け貸出と比べると高く、依然3分の1の銀行が貸出基準を厳しくしている（第4図）。また、資金需要も、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の▲63.0%から▲42.9%へ縮小したが、商工業貸出などに比べて戻りは鈍い（第5図）。なお今回、特別調査として、今年9月末までに返済期限を迎えた商業用不動産貸出について、その対応状況を聞いている。それによると、70-75%の銀行が当該貸出の4分の1以上について支払い期限の延長に応じたものの、借換えに応じた銀行は15-20%に止まった。米銀が商業用不動産貸出に厳しいスタンスをとっていることが窺われる。

第4図：商業用不動産貸出の貸出基準



第5図：商業用不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 個人向け貸出：プライム住宅ローンでは厳格化緩和の動きが一服

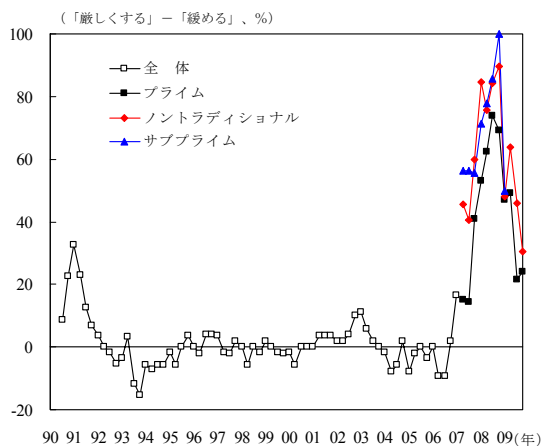
① 住宅ローン

住宅市場が底入れする中で、住宅ローンの貸出基準は総じて緩和の方向にあるが、プライムローンでは今回、足踏みとなった。3ヶ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の高いプライム向けでは小幅上昇（21.6%→24.1%）、非伝統的な住宅ローン向け^(注)では顕著に低下した（45.8%→30.4%）。サブプライム向けでは今回も報告銀行が少なく、集計の対象外となった（第6図）。また、ホームエクイティ・ローンではほぼ横這いとなった（32.1%→32.2%）。

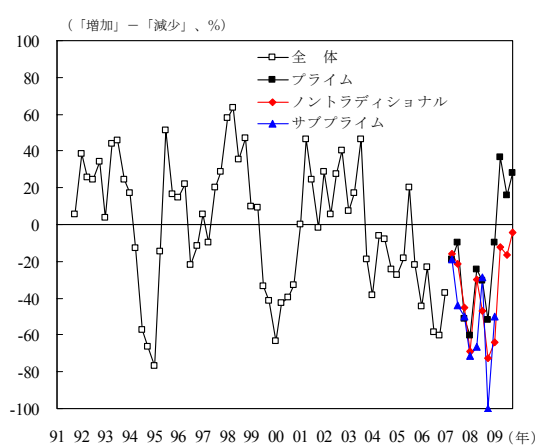
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要は、住宅販売の底打ちにより回復方向にある。プライム向けでは、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の 15.7%から 27.8%へと再び上昇し、3 調査連続でプラス（増加超）となった（第 7 図）。

第 6 図：住宅ローンの貸出基準



第 7 図：住宅ローンの資金需要

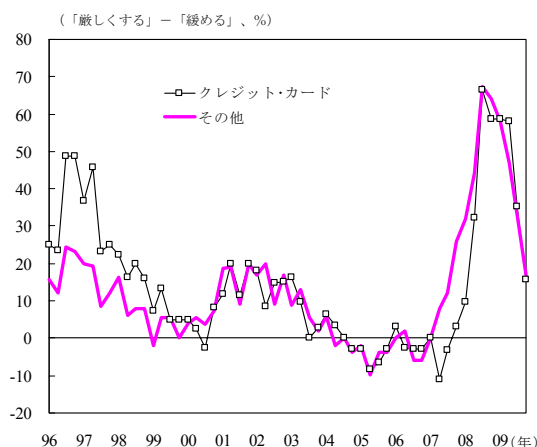


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

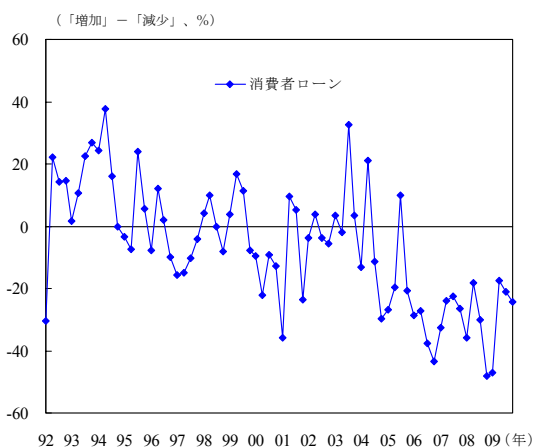
② 消費者ローン

消費者ローンでも、貸出基準を厳しくした銀行のネットの比率は低下方向にある（第 8 図）。クレジット・カードでは 35.3%→15.8%と前回から約 20 ポイント低下した。クレジット・カード以外でも 33.3%→17.0%と前回から改善幅が拡大した。一方、資金需要は、前回調査の▲21.2%から▲24.5%へと 2 回連続でマイナス幅が拡大（第 9 図）。個人消費の基調の弱さを反映している。

第 8 図：消費者向けローンの貸出基準



第 9 図：消費者向けローンの資金需要

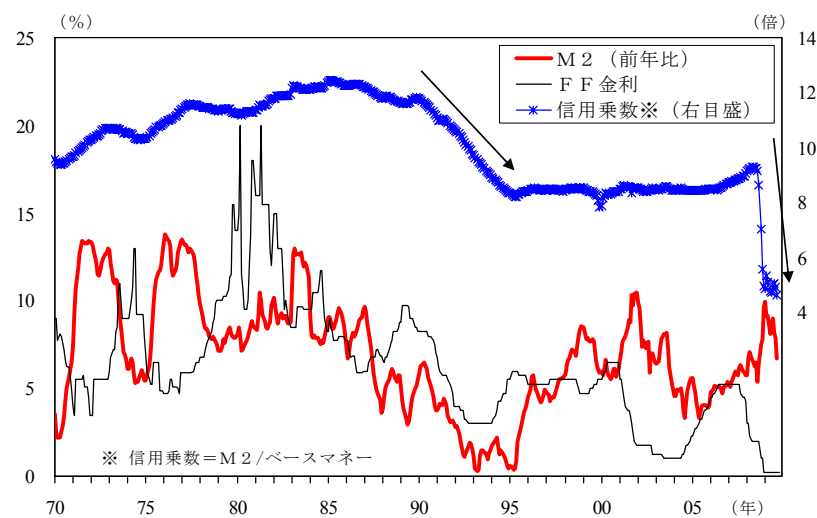


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 金融の機能低下が景気回復ペースを抑制

景気の底入れや金融市場の一段の安定をうけ、米銀が貸出態度を厳格化する動きは収まってきた。しかし、貸出基準を緩めた銀行はまだなく、家計・企業の資金調達環境は厳しいままである。金融システムが正常化するまでには時間を要するとみられる。それまでは金融緩和が实体经济に伝播しにくく、金融政策の効果は限られたものとなる。実際、FRB がゼロ%近くまで政策金利を下げて流動性供給を拡大してもマネーサプライの伸びは限定的で、信用乗数は大きく低下している（第 10 図）。米銀への資本注入などで、昨年末から年初にかけてマネーサプライは一時的に拡大したが、足元では9月のM2が6ヵ月前比年率でほぼゼロまで下がるなど伸び悩んでいる。同じくクレジットクランチ（信用逼迫）が生じた90年代前半も、マネーサプライの伸び悩み、信用乗数低下から景気回復がもたつた。今回も金融機能の低下が景気回復のペースをしばらく抑制すると予想される。

第 10 図：政策金利、マネーサプライと信用乗数



(資料) FRBより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H21.11.10 山中 崇 takashi_2_yamanaka@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内 2-7-1